

Bellflower



神戸薬科大学

図書館ニュース

No.34 2005. 10



Part 1 (新着資料から)

BOOK 『Vitamin D, Second Edition』

(Elsevier 2005 全2巻)

ステロイドホルモンであるビタミンDは、生体内で重要な働きを担っており、主に骨に対する作用から骨粗鬆症治療薬として臨床で使用されていることが知られています。近年、ビタミンDには様々な作用が発見されるに至り、現在では臨床応用の場においてガン、小児科、腎臓学、皮膚科学、免疫学、遺伝学といった幅広い分野に研究が広がっています。今回ご紹介する「Vitamin D, Second Edition」(Elsevier)は、ビタミンDの化学と代謝をはじめ、作用メカニズム、診断と治療、新規アナログ、新しい治療法などビタミンDに関する最新の

情報を網羅し、600以上の図によって余すところなく解説しています。本書は100以上の章から構成されており、200名を超える国際的な権威により執筆されたものです。内分泌学、骨学、骨生物学、あるいはガンの領域で研究を行っている方ならどなたでも参考にすることができる本です。学部学生の方々は、授業で一般的なビタミンDの作用について勉強する機会がありますが、実際の臨床や研究について興味のある方には一読をお勧めします。

須原 義智 記

DVD 『目で見える病気 第2版』

(医学映像教育センター 2005 全15巻)

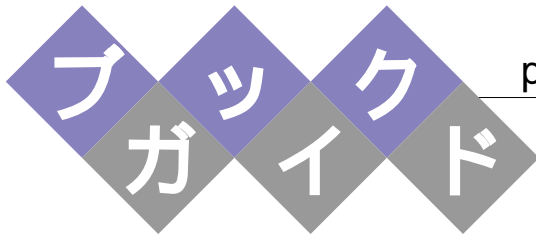
以前のビデオ版が今回DVD化され、内容も一部リニューアルされている。各巻は章立てになっており、頭出しも簡単である。全15巻で構成され、総論的なものが4巻、その他が各系統別疾患で構成され、循環器、脳血管障害、呼吸器、消化器、肝・胆・膵、泌尿器、生殖器、内分泌、血液、免疫、癌、感染症といった内容になっている。病理学者の手により監修されており、そのため豊富な病理形態データを中心に、アニメーションやCGを上手く使い、動きのある映像表現を実現している。中には最近のトピックスも含まれ、丁寧でわかりやすい映像と、病気の仕組みがわかりやすくまとめられてい

る教材である。一言だけ感想を述べさせてもらおうと、薬学生にとっては少し病理学的側面が強いのかも感じ、各疾患の症状についてももう少し詳しく解説があった方がよいのではと思われる。来年度より薬学教育新コアカリキュラムが導入され、その内容も現行より多くの疾患理解が期待されており、講義だけで十分でない学生にとっては、自己学習がますます重要になる。このような教材が講義の理解の手助けとなり、また予習の際においても、非常に利用価値のあるものになるはず。是非このようなAV教材の活用を学生諸君に期待します。

太田 光照 記

もくじ CONTENTS

ブックガイド(新着資料から) 須原義智・太田光照.....1	グラフと表で見る図書館統計 6~7
ブックガイドpart2(専門分野別) 大久保一徳.....2	薬剤師のためのDI資料(17) 長嶺幸子 8
世界の図書館を訪ねて(14) 児玉典子 3	お知らせ..... 8
受入図書から 4~5	



part 2 (専門分野別)
BOOK GUIDE



助教授 大久保 一徳

“薬事関係法規及び制度関係参考文献
国試対策を中心として”

薬剤師の業務は、これまでの調剤中心から医療スタッフとともに医療の最前線に立って病棟業務、医薬品情報の収集と提供、服薬指導、薬歴管理、在宅患者訪問等へと変貌しつつあります。薬剤師は、医療における中枢的役割を担おうとしています。この薬剤師業務の変化が国試のガイドラインの改訂及び修業年限の6年制移行をもたらしました。以下、新ガイドラインの区分にしたがい、参考文献を紹介していこうと思う。お役にたてば幸いです。

まず、国試全体をおおざっぱに俯瞰するために、三輪亮寿著「薬事法学講座」(南江堂)とわたくしたちの「薬と社会と法」(法律文化社)に目を通して下さい。

1. 法・倫理・責任

法・責任の概論書として、野田寛著「医事法上・下」(青林書院)、中川淳・大野真義編「医療関係者法学」(世界思想社)が最適でしょう。薬剤師の業務に起因する個別的な責任については三浦泉著「医薬品をめぐる法的責任(3版)」(法律文化社)、田中実・藤井輝久著「医療の法律紛争」(有斐閣)、鹿内清三著「薬剤事故の責任と服薬指導」(第一法規)を、製造物責任法については加藤雅信編「製造物責任法総覧」(商事法務研究会)を薦めます。個人情報保護については、開原成充・樋口範夫編「医療の個人情報保護とセキュリティー個人情報保護法とHIPPA法」(有斐閣)を読んでおいて下さい。

2. 制度

薬の歴史、薬学の発展、薬剤師の誕生あるいは医薬分業に関しては、石坂哲夫「やさしくすりの歴史」(南山堂)、チャールズ・ラオール、日野巖訳「世界薬学史」(科学書院)、吉岡信「近世薬業史」(やくじ)がよいでしょう。巧みに記述されており、素直に頭に入ります。医療と経済に関しては、ローム・バスキン、池田俊也他訳「実践薬剤経済学」(じほう)を薦めます。オーソドックスな概論書です。医薬品の開発に関しては、星野一正「インフォームド・コンセント」(丸善)、加藤一郎・森嶋昭夫編「医療と人権」(有斐閣)、(株)ミクス編「医療機関におけるGCPの実際」(ミクス)、(株)ミクス編「GCPにおける被験者の人権保護」(ミクス)がよいでしょう。なお、国民医療費、薬局調剤費、老人医療費、医薬分業の進展状況等に

関する基本的数値を厚生労働省及び関係諸機関が毎年出している「厚生労働白書」、「目で見える医療保険白書」、「国民衛生の動向」、「保険と年金の動向」等で押さえて置くことが大切です。国民の関心を集め、話題性の高い事項は朝日新聞を読み、注意しておいて下さい。

3. 薬事関係法規

薬剤師法関係では、厚生労働省官房編「薬事法・薬剤師法の手引き」(じほう)、中村健著「薬事法・薬剤師法の解説」(ユート・プレーン)、今泉忠六著「薬剤情報提供ガイド」(薬局新聞社)、中原保裕著「薬剤師のための服薬指導の切り口とポイント」(薬局新聞社)が重要です。薬事法関係では、薬事法規研究会編「やさしい薬事法(5版)」(じほう)、「平成14年改正最新版 薬事法」(薬事日報社)、機構法関係では、厚生労働省薬務局編「医薬品副作用被害救済制度の解説」(中央法規出版社)を薦めます。麻薬等の取締法関係では、麻薬研究会監修「麻薬・向精神薬・覚せい剤管理ハンドブック(7版)」(じほう)、同「最近の薬務行政」(薬務公報社)、渡辺徹・堀内茂友編「改正医薬品毒性試験法ガイドライン・GLP基準」(地人書館)、中村健著「薬事関係法規マニュアル(6版)」(南山堂)です。

4. 医事関係法規

医事関係法規関係では、山川洋平著「薬事関係法規・制度(2001年度版)」(日本コンサルタントグループ)がよいでしょう。

5. 医療保険関係法規

医療保険関係法規では、寺田勝英・福島紀子編著「医療薬学総論」(朝倉書店)、薬事衛生研究会編「薬事関係法規及び薬事関係制度解説」(薬事日報社)、「薬事ハンドブック」(じほう)、「病院薬局ハンドブック」(じほう)を推薦します。

より実践的な、より実務的な問題の出題が予想されますので、保険薬局及び保険薬剤師療養担当規則、保険医療機関及び保険医療養担当規則、保険医療機関及び保険薬局の指定並びに特定承認保険医療機関の承認並びに保険医及び保険薬剤師の登録に関する省令等の実務的規定を完全に頭に入れておいて下さい。

世界の図書館を訪ねて

14

ニューヨーク・マンハッタンの図書館たち

講師 児玉 典子

私の留学先である Weill コーネル医科大学は大自然に恵まれたコーネル大学 Ithaca キャンパスとは異なり、大都会 NY マンハッタンのアップパーイーストサイドにあります。隣にはノーベル受賞者を毎年出し、世界的医学者、野口英世博士が一等助手として研究生活を続けたロックフェラー医学研究所（現ロックフェラー大学）、また癌センターとしてボストンにあるハーバード大学の Dana-Farber Cancer Institute と並び Memorial Sloan-Kettering Cancer Center (MSKCC) があり、これら 3 つの機関は各々の ID カードで自由に利用できるようになっております。特に各機関のホームページライブラリーに Tri-Cat Catalog があり、このサイトは著者名やキーワード検索をするだけで簡単にどのライブラリーに図書が保管されているかなどの必要な情報がわかるシステムになっております。ロックフェラーでは警備も厳しく、ID カードを使用して入ります。1 階には主に科学論文が陳列されており、その他にコピー機、パソコン、勉強机などがあり、昔ながらの手動式のドアを開けてエレベーターに乗り込むと 2 階には野口博士の像や写真に加え、医学蔵書が陳列されております。アンティークな家具と少々暗めの照明の部屋の窓からイーストリバーを眺めてひと時を過ごすとハリーポッターの世界にタイムスリップしたような歴史を感じさせてくれる空間です。対照的にコーネルでは、照明も明るく ID カードを警備員に見せる必要もなく自由に出入りができます。ゲートを通過してそのまま進むとパソコンが並んでおり、これらは自由に使用できるため多くの医学生や医療スタッフが利用しております。さらに同じフロアに科学雑誌があり、その新刊の多さには感動します。地下 1 階では多くの学生が熱心に夜遅くまで机に向かって勉強している姿を見ることができ、ソファで新聞などを読んでくつろいでいる人の姿も見えます。彼らにとってライブラリーは休憩所というところでしょうか。一方、MSKCC は病院ということもあって患者情報や臨床関連が多く利用者もドクターのようです。

マンハッタンには他にもニューヨーク大学や宇多田ヒカルで日本でもお馴染みのコロンビア大学など歴史のある大学が多くあります。コロンビアはマンハッタンのモーニングサイド・ハイツにあり、この地域はハーレムに近いにもかかわらず多くの人で賑わっております。ライブラリーは Law Library、Biology Library や Chemistry Library といった 26 分野に分かれており、歴史を感じさせる壮麗な 7 つの建物に各々あります。さらにこれらの分野は独自にホームページをもち利用者にとっては至れり尽くせりです。私が見学した Butler

Library は African studies や American History and Literature などのいくつかの分野に分かれており、まるで美術館に迷い込んだようです。カフェテリアもあり休憩したい人は自由に飲食もできます。また、地方紙を含む多くの新聞が陳列されているコーナーもあり、その種類の多さには驚きます。時間のある人はコロンビア大学の 7 つの建物を巡るライブラリーツアー（無料）に参加してみてもどうでしょうか？ マンハッタンでは美術館巡りに飽きた人は図書館巡りというのも歴史を感じさせてくれるかもしれません。

Cornell: <http://library.med.cornell.edu/>Rockefeller: <http://www.rockefeller.edu/library/>Columbia: <http://www.columbia.edu/cu/lweb/>

コーネル医科大学図書館とその入り口



ロックフェラー大学図書館 2 階にある、野口英世博士の写真

書名	著者名	出版社
科学の最前線で研究者は何を見ているのか	瀬名秀明編	日本経済新聞社
実用的な英語科学論文の作成法	河本修他	朝倉書店
統計物理学	今田正俊	丸善
SciFinder活用法	時実象一	サイエンスハウス
液クロを上手につかうコツ	中村洋監修	丸善
はじめての有機スペクトル解析	宇野英満他編	丸善
ブルース有機化学 上・下	Paula Y. Bruice	化学同人
アロマテラピー・精油のなかの分子の素顔	スー・クラーク	じほう
医薬分子生物学	野島博	南江堂
ゲノム研究実験ハンドブック	辻本豪三他編	羊土社
患者の生き方	加藤真三	春秋社
入門医療統計学	森實敏夫	東京図書
医学薬学英文活用辞典	石岡卓二	アトムス
患者は何でも知っている	J.A.ミュア・グレイ	中山書店
EBM実践のための医学文献評価選定マニュアル	森實敏夫他	ライフサイエンス出版
新しい医療革命	清水宏幸	集英社
タンパク質機能解析のためのバイオインフォマティクス	藤博幸	講談社
がんは誰が治すのか	松野哲也	晶文社
薬剤師が関わる輸液療法のポイント	仲川義人編	医薬ジャーナル社
「服薬マネジメント」虎の巻 上・下	日経ドラッグインフォメーション編	日経BP社
症例から学ぶSOAPワークブック	緒方宏泰他監修	じほう
医療用具の臨床試験	Nancy J.Stark	サイエンティスト社
EBMを用いた診療ガイドライン作成・活用ガイド	中山健夫	金原出版
Q&A生活習慣病の科学	中尾一和編	京都大学学術出版会
肝機能低下時の薬剤使用ガイドブック	石井公道監修	じほう
脳と心に効く薬を創る	鍋島俊隆	岩波書店
私の「日本エイズ史」	塩川優一	日本評論社
スキルアップのための皮膚外用剤Q&A	大谷道輝	南山堂
心臓外科医の挑戦状	南淵明宏	中央公論新社
国際的視点から学ぶ医療経済学入門	B.マックペイク	東京大学出版会
お医者さんに効く!ストレス解消ハンドブック	Valerie Sutherland	じほう
薬局におけるコミュニケーション能力の開発と実践 改訂	William N. Tindall	じほう
そこが知りたい! クリニカルパス	日本クリニカルパス学会企画委員会編	医学書院
保健医療福祉システム入門	田村誠	医学書院
阪神・淡路大震災医師として何ができたか	後藤武	じほう
薬剤管理指導のためのプロブレムリスト作成の手引き	日本病院薬剤師会学術委員会第三小委員会編	じほう
保険薬局スタッフのためのマナーと接遇	保険薬局薬剤師OJT研究会企画・編	じほう
保険薬剤師ビギナーズマニュアル	井手口直子編著	テクノミック
患者がみえる薬歴管理	早川達	じほう
医薬品企業変革講座	真野俊樹編著	薬事日報社
病院薬剤師業務マニュアル	日本病院薬剤師会監修	エルゼビア・ジャパン
薬剤師と薬学生のためのコミュニケーション実践ガイド	Bruce A.Berger	じほう
服薬指導のためのくすりの効き方と作用	國正淳一	じほう
医薬品の安全性	長尾拓編	南山堂
プログラム学習による処方解析学	井関健他編	廣川書店
図解よくわかるTDM	木村利美編著	じほう
薬学生のための天然物化学	木村孟淳編	南江堂
創薬科学	石橋弘行他編	廣川書店
CRCという仕事	丸山由起子	メディカル・パブリケーションズ
漢方薬物解析学	岡村信幸	廣川書店

(化学、医学、薬学分野より一部抜粋)

『クイズ 植物入門』

田中修著 講談社

植物のことについて「物知りになった気分」になれる。お隣の甲南大学教授、田中修先生の著作で親しみがもてる本である。クイズ形式になっていて、とても読みやすく、「なるほど...。」と思ったり、「へー、そうだったのか。」と思ったり。主として植物に関する身近な現象、聞いたことがある事項を取り挙げて解説されており、さらっと読んでいるうちに、知らず知らず豆知識が増えている感じ。(M.I)



『ひとはなぜ服を着るのか』

鷲田清一著 日本放送出版協会

ひとが生きていくための根本をかたちづくるもの、例えば食べること、着ることについてじっくり考える機会は少ないのではないのでしょうか。この本では「モード」という視点からの社会、コスメティックの意味、衣服のホスピタリティといったことなどについて考察を深めています。一度読んだならば服を着ることがより楽しくなるはず？

(K)



『科学論文の英語用法百科 / 第1編』

グレン・パケット著 京都大学学術出版会

本書は、日本人の理工学系学術論文(英文)を数多く校閲してきた著者が、日本人の誤りやすい英語用法133例を取り上げ、豊富な例文で正しい使い方を示した理系論文作成用の参考書である。例えば、「On the other hand」など、馴染みのある用語にも予想外の厳しい使用条件があるなど、改めて学術英語の厳しさが認識できる。辞書的な使い方のほか、英語に興味ある人には読物としても面白い。(Yhr.N)



『人を動かす』

デーブル・カーネギー著 創元社

権力を行使したり、極端に言うとかつ口を突きつけたりすれば、人はやむなく動くでしょう。本書には、人が納得し違和感なく動いてくれるようになる手法等が書かれています。人間関係を円滑にすすめるのに役立つ一冊だと思えますが、顧客対応にも使えますので、薬剤師やMRのお仕事を目指される方にお勧めです。読めば、将来CUSTOMER'S SATISFACTIONをゲットするための一助になると確信します。(T)



『となり町戦争』

三崎亜記著 集英社

「となり町との戦争が始まる。」しかしそれは私たちが思い抱くイメージとはまるで違う戦争だった。確実に戦争は起こっているのに目にみえないのだ。主人公は戦争について何も分からぬまま探偵業務従事者として、この戦争に巻き込まれていくが、結局「戦争」をよく実感できぬまま終戦をむかえる。一体、戦争とは...? 戦争について深く考えさせられる作品です。(H.I.)



『夜のピクニック』

恩田陸著 新潮社

夜を徹して八十キロを歩き通すという、高校生活最後の一大イベント「歩行祭」。登場人物たちはそれぞれ悩みやいろいろな思いをかかえて、一晩中歩きます。たった一晩のことですが、歩き終えた後には世界が変わっています。読み終わると、さわやかでノスタルジックな気分に入ることができます。(M)



グラフと表で見る 図書館統計

1 入館者の傾向について

今回は、今までとは少し違った切り口から神戸薬科大学図書館を見てみましょう。

まず、「月別入館者数」の推移について、グラフを見ていただければわかるように年間利用者が漸増してきているのは、図書館職員として喜ばしい傾向と感じています。

最大入館月は7月で、前期定期試験やレポート提出が控えているので多いようです。

1カ月あたり2万9千人に伸びてきており、これを開館日1日平均になおすと、約千人になります。(ちなみに、多い日は1700人を超えています。)

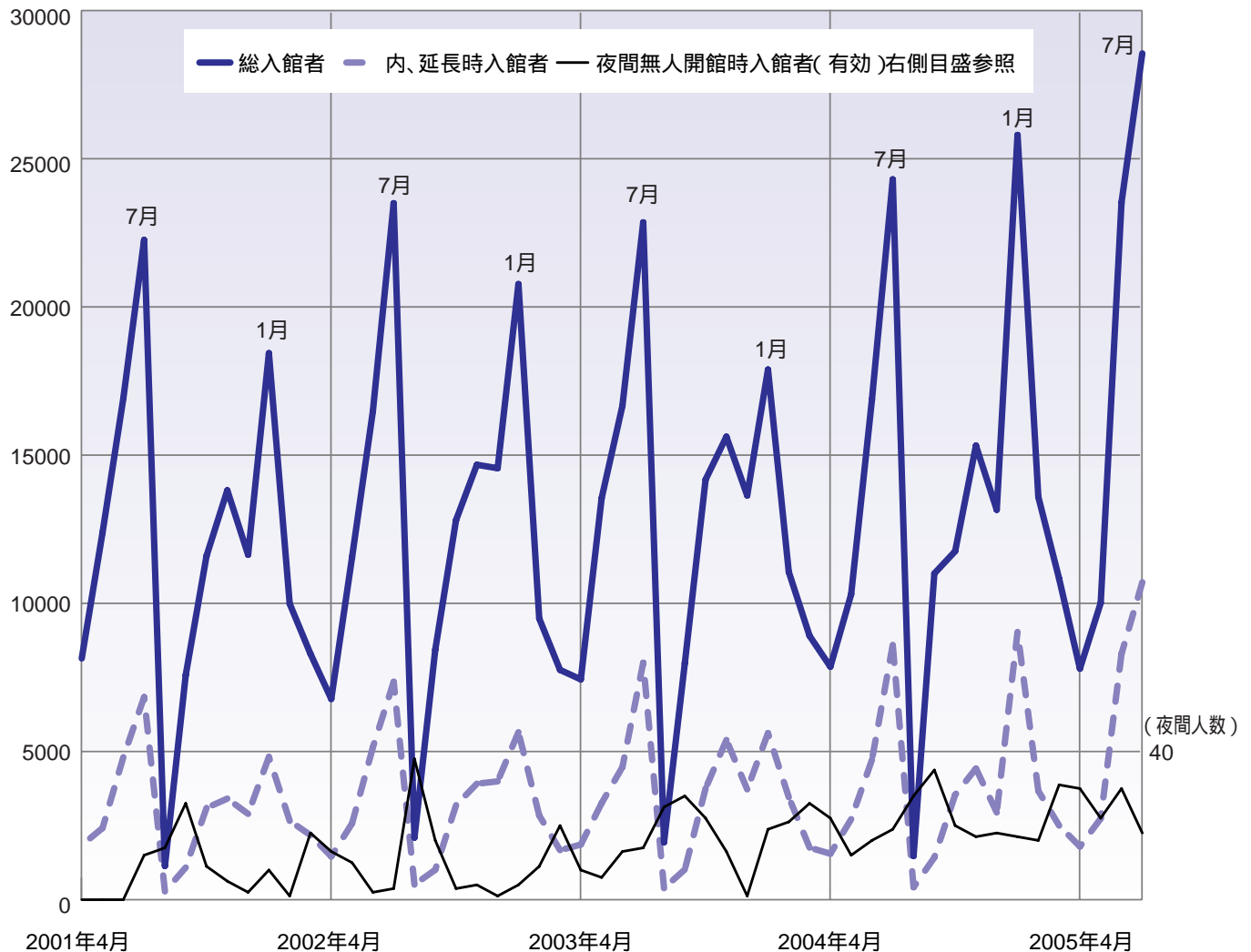
図書館の座席数が280席程ですので、1席当り3-4回転程度しなければ、利用出来ない利用者が訪れることが分かります。「席取り行為」は迷惑なので止めて下さい、という図書館からのお願いの具体的理由をご理解いただけたでしょうか。

延長時間(月～金曜日17:00以降および土曜日13:00以降)の利用者を見ると、同様に1カ月あたり約1万人に伸びてきています。

夜間無人開館は教職員、博士課程大学院生、社会人大学院生、ポストドクターのうちの登録利用者のみ利用出来るので、全利用者の約0.1%程度になっています。

利用者の皆様の譲り合いとマナー向上にご協力をお願いします。

(人数) 入館者数(月別)



2 一般雑誌の利用状況について

学生が貸し出しできる一般雑誌は約30タイトル有ります。(雑誌カタログ参照)

英語や語学関連のタイトルは学年を問わずに利用が有ります。1年次生には、パソコン関連のタイトルが人気です。

また、職員には時事関連やスポーツ関連のタイトルの利用が多いようです。薬学関連やバイオテクニク関連の雑誌も揃えていますので、こちらもご利用を待っております。

なお、The journal of the American Medical Association: JAMA は2005年3月に休刊となり、現在、MMJ: The Mainichi Medical Journalを受け入れています。

「こんな雑誌を入れて」とか「これを、こちらの雑誌にかえてもらえる？」等のご希望が有りましたら、遠慮なくご連絡ください。

一般雑誌の貸出統計(集計期間:平成16年4月 - 平成17年3月)注:その他は学生以外の教職員、研究生など

タイトル	学生 合計	1年 次生	2年 次生	3年 次生	4年 次生	大学院	その他	合計
TOEIC Friends トーイックフレンズ	67	24	7	30	6		2	69
Active English	40	21		17	2		26	66
ASCII	37	35		1	1		1	38
化学と薬学の教室	8	1	1	2	4		4	12
毎日ライフ	8				1	7	4	12
Rp レシピ	7			7				7
週間インサイド・ヒューマンボディ	6	6						6
アエラAera	5	1			4		144	149
日経バイオビジネス	5				4	1	13	18
装苑	5		2		3		2	7
栄養と料理	4	1		2	1		8	12
The Journal of the American Medical Association : JAMA	3					3		3
文藝春秋	3	2			1		3	6
Newton	3	1	2				1	4
からだの科学	3	1			1	1	1	4
薬のチェックは命のチェック	2	1				1		2
旅	2				2			2
ニューズウィーク/Newsweek	2		2				111	113
ぱそ : Asahiパソコン超ビギナーズ版	1	1						1
レコード芸術	1	1						1
時事英語 CURRENT ENGLISH	1			1				1
日経サイエンス	1	1						1
日経メディカル	1					1		1
薬のサイエンス	1			1				1
Bioベンチャー	1					1	1	2
文學界	1	1					1	2
Number : sports graphic	0						26	26
暮しの手帖	0						15	15
芸術新潮	0						7	7
患者のための医療	0						2	2
JR時刻表	0						1	1
ナショナルジオグラフィック	0						1	1
中央公論	0						1	1

薬剤師のためのDI資料 17

『プログラム学習による処方解析学』

井関 健, 松山賢治 他編著
廣川書店, 2004

薬のプロとして、薬剤師が薬の適正使用のために力を発揮するには、病態はもちろん、薬物の処方意図を正しく把握することが、非常に大切になってくる。

本書では、薬剤師国家試験のガイドラインにある疾病と病態を中心に取り上げ、病態の概説、キーワード、治療方針そして最新の代表的な処方例とその処方解説が病態と関連付けて、非常にわかりやすく解説されている。また随所に、図や表が取り入れられており、視覚的にも理解しやすくなっている。

病態、治療方針、処方解析と読み進んでいくうちに、薬学的考察を加えた処方解析が身につくように編集されている。更にQ&A形式が取り入れられている。今までに解説されたポイントが確認できるようになっており、より確実な応用できる知識として定着するように工夫されている。

日常の薬剤師業務での処方解析はもちろん、薬学6年制における薬物治療学のテキストとしても有用であると思われる。

長嶺 幸子 記

JDreamについて

日本語で検索できる学術情報データベースとして、科学技術振興機構（JST）が提供するJDreamを契約しました。図書館ホームページにリンクがあります。学生の皆様ももちろん利用できます。

JDreamには以下の5つのデータベースがありますので、目的にあったデータベースを選択して検索してください。

- JSTPlus (科学技術全分野 1981～)
- JST7580 (科学技術全分野 1975～1980)
- JMEDPlus (日本国内発行の医学関連分野 1981～)
- MEDLINE (NLM提供の医学関連分野 1966～)

医学・薬学予稿集

接続はIPアドレス認証方式ですが、使用者の名前の入力が必要です。英語でも日本語でも、ハンドルネームでも結構です。また、JDreamトップページに「JDream検索ガイド」がありますので、活用してください。

質問などがあれば、図書館でお尋ねください。

お知らせ

4階書庫、4階書庫積層、4階集密書庫の書架整理を行いました。

旧版の配架替えや和雑誌のタイトル並べ替え等の作業が済み利用しやすくなりました。資料の探しやすさが増したのではないのでしょうか？

なお、4階書庫の旧版の一部は、書庫内スペース確保のため4階集密書庫に順次移動しています。必要に応じて所蔵検索（OPAC）等でご確認の上、ご利用ください。

昨年導入のDVDプレーヤーの設置に引き続き、今年度のマルチメディア整備として、4階閲覧室へDVDメディアを準備中です。

「目で見える病気 第2版」シリーズは完結しました。（ブックガイドPart 1 参照）引き続き「目で見える薬理学入門 第2版」シリーズを受け入れ中です。これらの資料は、「日本私立学校振興・共済事業団」の「経常費特別補助金」に申請中のものです。貸し出しもできますので、利用をお待ちしています。

閲覧室の空調機の改修が終わりました。

去る、平成17年6月24日に私立大学図書館協会・阪神地区相互利用担当者連絡会が本学図書館を当番校として開催されました。

大阪府、兵庫県、和歌山県内の53大学・短期大学が参加しました。

神戸薬科大学図書館ニュース No.34

編集・発行 神戸薬科大学図書館

2005年（平成17年）10月1日発行

神戸市東灘区本山北町4丁目19番1号（〒658-8558）

TEL (078) 441-7512 FAX (078) 435-2080

URL <http://www.kobepharmaceutical.ac.jp/library>